
花火大会

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花火大会

【NZコード】

N9915N

【作者名】

ぬじゅわきし

【あらすじ】

今更ですが花火ネタ・・・

もしも人の体が花火だったら?

「花火大会やるーよ。」

「イエー。」

若者達が公園に集っていた。夏も終わり、最後の花火大会を開こうと画策したのである。

若者達は、早速花火の準備をした。ジッポーライターとろくそく。

「あれ？ 花火は？」

「あるじゃん。」

「ああ、そうだね。」

「じゃあつけようよ！」

男性が人差し指をろうそくにかざした。たちまち男性の指先から色彩豊かなキレイな火がシャワーのように出た。

「わああ。」

「きれい。」

「私にも頂戴。」

「いいよ。」

人差し指に火をつけた男性はその火を他の人の指にかざした。たちまちその人らの指から火が飛び出した。

「わーーすつごいきれい！」

火がとまつた。男性の人差し指がぼろりと落ちた。

「あ、終わつた。」

「じゃあ次次。」

そういうわけで、次々と体に火をつけて花火を楽しんだ。

「みてーー！」

と女の子が言ったので、皆その方を見た。女の子は両腕に火をつけている。バババーと激しい花火が飛んでいて、赤黄色緑、色彩豊かに火花を散らしていた。

「わーーきれい！」

「激しいね！」

「すごい！」

「きれーい・・・・・」

やがて火は全身を回り、真っ黒になつて止まつた。

「あ、終わった。」

「はやくバケツに。」

「そうだね。」

若者達は真っ黒な女の子をかかえて大きな水入りばけつにどしゃーんとつづこんだ。

花火は佳境を向かえ皆言つた。

「そろそろ、線香花火にしようよ。」

「そうだね。」

すると、若者達は次々と火を髪の毛にかざした。たちまち、頭が燃えた。

「わーー。」

「ちゃんと火花であるかなあ。」

若者達の頭がぶくぶく赤く沸騰して膨れだした。パチパチパチと火花が出た。沢山火花が出た。

「わああ！沢山火花がで」

その時男の子の首がぼろりとおちた。

「すごいわ！あ、わたしちつちゃーい」

ぼろり。

「わははしょぼいなあれ・・・あんまり火花が・・・ない・・」

ぼろり。

「あーらう、わはは。」

ぼろり。

ぼろり。ぼと。

「最後に一発打ち上げ花火したいね。」

「そうだね。」

「でも、もう打ちあがつてるよ。」

「え?」

「ほら。」

男の子が指差す方向を見ると、それは月であった。

「月じやん。」

「ちがうよ。月って100億年前に打ち上げられた花火なんだよ。」

「ええ、そうなの?」

「もうすぐパーンといくんじゃね。」

「パーンと?」

「楽しみー。」

「もうすぐくるのかー。」

そのとき円が破裂した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9915n/>

花火大会

2010年10月9日18時49分発行